

令和 6 年度(2024 年度) シラバス

(科目教科概要)

吉川福祉専門学校
介護福祉科

介護福祉科 教育課程

領域	教育内容	科 目	区 分	時間数	授業時間数		目次
					一年次	二年次	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	30	30		1
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30	30		2
		人間関係とコミュニケーションⅡ-①(手話)	演習	30		30	3
		人間関係とコミュニケーションⅡ-②(点字)	演習	30		30	4
		チームマネジメント	講義	30		30	5
	社会の理解	社会の理解Ⅰ-①	講義	30	30		6
		社会の理解Ⅰ-②	講義	30	30		7
		社会の理解Ⅱ	講義	30		30	8
	人間と社会に関する選択科目	組織人間関係論	講義	30	30		9
小 計				270	150	120	
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	60	60		10
		介護の基本Ⅱ	講義	60	60		12
		介護の基本Ⅲ(医療と介護)	講義	30	30		14
		介護の基本Ⅳ(リハビリテーション)	講義	30	30		15
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30	30		16
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30		30	17
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ-①(住居・被服・家庭生活)	演習	30	30		18
		生活支援技術Ⅰ-②(住居・被服・栄養調理・家庭生活)	演習	60		60	20
		生活支援技術Ⅱ-①	演習	30	30		24
		生活支援技術Ⅱ-②	演習	60	60		25
		生活支援技術Ⅱ-③	演習	60		60	26
		生活支援技術Ⅲ	演習	60		60	27
		生活支援技術Ⅳ(アクティビティ・サービス)	演習	60		60	28
	介護過程	介護過程Ⅰ-①	演習	30	30		30
		介護過程Ⅰ-②	演習	60	60		31
		介護過程Ⅱ	演習	60		60	32
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	60	60		33
		介護総合演習Ⅱ	演習	30		30	35
		介護総合演習Ⅲ(卒業研究)	演習	30		30	36
	介護実習	介護実習Ⅰ-①	実習	80	80		37
		介護実習Ⅰ-②	実習	152	152		38
		介護実習Ⅰ-③	実習	32		32	39
		介護実習Ⅱ	実習	192		192	40
小 計				1,326	712	614	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	60	60		41
		こころとからだのしくみⅡ	講義	30		30	43
		こころとからだのしくみⅢ	講義	30		30	44
	発達と老化の理解	発達と老化の理解	演習	60	60		45
	認知症の理解	認知症の理解	演習	60		60	47
	障害の理解	障害の理解	講義	60		60	49
	小 計				300	120	180
医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアⅠ	講義	68	68		51
		医療的ケアⅡ	演習	60		60	53
	小 計				128	68	60
卒業に必要な総授業時数 (合 計)				2,024	1,050	974	
					2,024		

領域	授業科目	時間数	区分	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間の尊厳と自立	30	講義	1 年前期		水間光昭
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の尊厳を福祉のもつ意義から考える。具体的には生活場面の事例から高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について、介護現場で起こる事例を通して基本となる考え方を学ぶ。個々人の権利としての人権を理解し利用者の権利侵害の背景や権利擁護、自立のあり方について考える。						
《達成目標》 ①生活場面から自立に関する基本的な考え方を学び、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。 ②人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷から権利擁護の考え方を理解する。 ③介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。						
回数	授業計画					備考
1	「人間の尊厳と自立」の授業のねらいと概要を説明。利用者主体について考える（動画視聴）					尊厳を身近に感じる 利用者の生活を知る
2	「介護福祉士と倫理（基盤）」介護の専門性や介護の定義を、グループワークを通して知る					介護福祉士になった自分を想像する
3	「人間の尊厳と人権・福祉理念」人間の尊厳の保持とは何か。					歴史の流れを知る
4	「尊厳と自立をめぐる社会の仕組み」がどのように守られているか					憲法第 13・25 条の予習
5	「社会福祉領域での人権①」介護を必要とする人の権利とは何か					テキスト P15～
6	「社会福祉領域での人権②」より人間らしく生きることの権利					テキスト P24～
7	「人間の尊厳と自立・人権」にかかわった人の思想や言動を知る					映画視聴
8	「人権尊重と権利擁護」から利用者の人権擁護とは何かを知る ハンセン病患者の事例を通して					テキスト P 37～ ＊短編動画視聴
9	「自立のあり方」「自立とは」、自己選択・自己決定、自律の考え方					テキスト P52～
10	「介護を必要とする人々の自立と自立支援」 自立への意欲と動機づけと自立支援の考え方					テキスト P61～
11	「介護における自立支援の実際」 ICF の図から自立支援を考える					テキスト P71～
12	利用者の権利侵害 高齢者虐待事例を通して					テキスト P41～
13	介護現場で起こる事例を通して、終末期介護の倫理を考える					テキスト P35～
14	定期試験 学習した内容の振り返り					
15	定期試験の解答説明 前期に学習した内容のまとめ					尊厳と自立を振り返る
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	授業参加度状況	小テスト	その他		
	80%	10%	10%			
学生へのメッセージ	人間の尊厳とは何か？介護福祉士としての倫理観を身につけましょう。そこから自立支援としての介護を展開していきましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	受講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30	1 年前期		小林亜紀
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ②介護現場における倫理的課題についてコミュニケーションで対応できるための基礎を身につける。 ③多職種協働や信頼関係の下、コミュニケーションが取れるようにする。						
回数	授業計画					備考
1	「人間関係とコミュニケーション」の授業のねらいと概要の説明、人間らしさ					
2	自分と他者の理解をジョハリの窓から					
3	「心理学からみた人間関係①」 発達心理学からみた人間関係					
4	「心理学からみた人間関係②」 社会心理学からみた人間関係					
5	「対人関係におけるコミュニケーション①」 コミュニケーションの概念 基本構造					
6	「対人関係におけるコミュニケーション②」 コミュニケーションの手段					
7	「対人援助関係とコミュニケーション①」					
8	「対人援助関係とコミュニケーション②」					
9	「対人援助関係とコミュニケーション③」 援助関係形成の7原則・バイスティックの7原則から					
10	「対人援助関係とコミュニケーション④」 演習 傾聴について考える					
11	「組織におけるコミュニケーション①」組織の条件とコミュニケーションの特徴					
12	「					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ－①（手話）	演習	30	2年前期		水野守久
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》①聴覚障がい・聴覚障がい者への理解と認識を深める。 ②聴覚障がい者への介護を実践のために必要なことを理解する。 ③聴覚障がい者とのコミュニケーション能力を補うため技術の取得する。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 聴覚障害とは？ 聴覚障がい者の生活について。第1課 名前の表し方			聞こえない事とはどのようなことなのか考える。便利なこと・不便なことを考える		
2	第1課 自己紹介・あいさつを学ぶ			手話は色々な方法を使って表す言語。体験しよう		
3	第2課 人称・数字の表し方を学ぶ			日常使う人称・数字を考える		
4	第2課 時間の表し方を学ぶ			普段使う時間の表現を考える		
5	第3・4課 趣味とスポーツ 反対語を学ぶ			興味を持つ趣味やスポーツを考える		
6	第5課 生活用語を学ぶ			社会や生活の中での表現を考える		
7	第6課 動作を学ぶ			生活の中の動きを考える		
8	第6課 疑問詞・受身を学ぶ			質問形式でお互いに表してみよう		
9	第7課 学校と職業を学ぶ			興味のある職業、将来の職業を考える		
10	第8課 感情表現と自然現象を学ぶ			手話で大切な感情表現を考える		
11	第9課 方位と地名を学ぶ			県の特徴を考える		
12	今まで学んだ手話で、日常会話の発表			これまで学んだ内容の復習をしておく		
13	今まで学んだ手話で、日常会話の発表			これまで学んだ内容の復習をしておく		
14	定期試験			自分の思いを手話で表せるか考える		
15	定期試験の振り返り			手話の楽しさ・難しさを考える		
使用テキスト		入門手話講習会テキスト（自作）				
評価		手話読取試験	レポート課題提出	授業中の発表	授業参加状況	
		40%	20%	30%	10%	
学生へのメッセージ		手話は一つの言語である、その手話を覚えて簡単な会話ができるようになろう。				
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ－②（点字）	演習	30	2 年後期		高梨憲司
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》①障害受容(先天性と中途障害・弱視者・家族)の過程に寄り添い、適切な相談対応ができる。 ②障害特性に配慮した適切な生活の介護ができる。 ③視力や見え方に配慮した適切な情報支援ができる。 ④点字による簡単な資料の作成や点字の解読ができるようになる。						
回数	授業計画					
1	障害についての基本的な理解 地域社会像を考えることによって、本授業の意義と自己の役割					
2	視覚障害の理解Ⅰ：視覚障害者の現況と障害特性・生活ニーズを理解 障害特性に対する合理的配慮					
3	視覚障害の理解Ⅱ：視覚障害者とその家族の心理を理解し、具体的な相談に対応できる。					
4	視覚障害の理解Ⅲ：失明原因となる主な眼疾患、弱視者の見え方・見えにくさについての具体的な配慮ができるようになるとともに、利用可能な制度や福祉用具に関する知識					
5	点字の基礎Ⅰ：点字の歴史と概要、点字器の使い方と読み方、点字の意義と 50 音の構成					
6	点字の基礎Ⅱ：語の書き表し方その 1 (仮名遣い)を学び、簡単な単語を読み書き					
7	点字の基礎Ⅲ：語の書き表し方その 2(仮名遣い)から点字特有の表記 簡単な文章を読み書き					
8	点字の基礎Ⅳ：語の書き表し方その 1 (数字)					
9	点字の基礎Ⅴ：語の書き表し方その 1 (数字)					
10	点字の基礎Ⅵ：語の書き表し方その 1、数字やアルファベットの入った文章の読み書き					
11	点字の基礎Ⅶ：語の書き表し方その 2、点訳に必要な複合語や固有名詞の分かち書き					
12	書き方の実際Ⅰ：本文と見出しの書き方、案内文・手紙の書き方、手紙や名刺の作成					
13	書き方の実際Ⅱ：テキストの練習問題を用いて一般文章の点訳					
14	定期試験					
15	学習のまとめ：定期試験の振り返り、視覚障害者に対する移動支援と情報提供の方法、日常の場面や就労先で視覚障害者への適切な援助の実際					
使用テキスト	初めての点訳（第 3 版）（特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会 発行）					
評価内容	筆記試験	レポート課題提出	授業参加状況			
	70%	15%	15%			
学生へのメッセージ	利用者・家族に寄り添い、実際に障害者支援の現場で活用できる知識と援助技術を身に着けることに努めましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	チームマネジメント	講義	30	2 年後期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。						
《達成目標》①介護サービスの特性と求められるマネジメントが理解できる。 ②チーム運営の基本が理解できる。 ③人材の育成と自己研鑽が理解できる。 ④組織と運営管理が理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	介護実践におけるチームマネジメントの意義 チーム チームマネジメント					授業説明
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義 ヒューマンサービスとしての介護サービス					
3	介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護現場で求められるチームマネジメント					小テスト
4	介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み					
5	ケアを展開するためのチームマネジメント ケアを展開するために必要なチームとその取り組み					
6	ケアを展開するためのチームマネジメント チームの力を最大化するためのマネジメント					小テスト
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 介護福祉職のキャリアと求められる実践力					
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント キャリアに応じて求められる実践力					* 外部講師
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 介護福祉職のキャリア支援					* 外部講師
10	組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の構造・機能と役割					
11	組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の管理					
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント					小テスト
13	チームマネジメントの実際 ケアの展開のマネジメント演習					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り これまでの学習のまとめ ケアの展開のマネジメント演習					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」(第 2 版) 中央法規出版				
評価		筆記試験	課題提出	小テスト	授業参加状況	
		70%	10%	10%	10%	
学生へのメッセージ		チームマネジメントの知識は、介護福祉士としてチームケアを行う上で役立ちます。				
実務経験と科目との関連		介護福祉士としての実務経験を生かし、チームマネジメントに必要な基礎的知識が理解できる授業を行う。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅰ－①	講義	30	1年前期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
《達成目標》 ①個人・家族・地域・社会のしくみと、地域社会における自助・互助・共助・公助を理解する。 ②地域共生社会や地域包括ケアの理念、その実現のための制度・施策を理解する。 ③社会保障の基本的な考え方、社会保障制度のしくみ、社会保障制度の現状と課題を理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 社会とはなにか 社会の理解を学ぶ理由 社会と生活のしくみ					
2	社会と生活のしくみ ライフスタイルの変化 家族の機能と役割					
3	社会と生活のしくみ 社会・組織の機能と役割 地域・地域社会 地域社会における生活支援					
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉の発展 地域共生社会					小テスト
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域包括ケア					
6	社会保障制度 社会保障の基本的な考え方					
7	社会保障制度 日本の社会保障制度の発達					
8	社会保障制度 日本の社会保障制度の発達					
9	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					小テスト
10	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
11	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
12	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					
13	社会保障制度 日本の社会保障制度のしくみ					小テスト
14	定期試験					
15	定期試験解説 社会保障制度 現代社会と社会保障制度					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座2「社会の理解」(第2版) 中央法規出版					
評価	筆記試験	小テスト	授業参加状況			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	日頃から新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、自分の生活に結びつけると社会の動きが理解できます。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士としての実務経験と社会福祉士の知識を生かして、介護実践に必要な地域共生社会、地域包括ケア、社会保障制度の基礎的知識が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅰ－②	講義	30	1年後期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。						
《達成目標》 ①介護保険制度の目的としくみを理解する。 ②障害者総合支援制度の目的としくみを理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 高齢者保健福祉と介護保険制度 高齢者保健福祉の動向					
2	高齢者保健福祉に関連する法律					
3	介護保険制度 介護保険制度創設の背景と目的					
4	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					小テスト
5	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					
6	介護保険制度 介護保険制度のしくみの基本的理解					
7	介護保険制度 介護保険制度における組織、団体、介護支援専門員の役割					
8	介護保険制度 介護保険制度の動向					
9	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 障害者保健福祉の動向					小テスト
10	障害者保健福祉に関する法律					
11	障害者総合支援制度					
12	障害者総合支援制度					
13	障害者総合支援制度					小テスト
14	定期試験					
15	定期試験解説 障害者総合支援制度					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座2「社会の理解」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験	小テスト		授業参加状況		
	70%	20%		10%		
学生へのメッセージ	日頃から新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、自分の生活に結びつけると社会の動きが理解できます。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士としての実務経験と社会福祉士の知識を生かして、介護実践に必要な介護保険制度、障害者総合支援制度の基礎的知識が理解できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	社会の理解Ⅱ	講義	30	2 年前期		船澤修一
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解し、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。生活の場の地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得し、社会保障の基本的な考え方、しくみを学び。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護制度・施策の基礎的な知識を習得する。						
《達成目標》 ①社会的な存在の人を理解し、様々な視点から課題と活用できる諸制度を関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基本的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度他、制度創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 社会保障制度の意義 役割 目的 機能					
2	日本の社会保障制度の発達					
3	日本の社会保障制度のしくみと実施体制					
4	年金 医療 介護保険 概要					
5	雇用保険 労働者災害補償保険 社会扶助					
6	現代社会の課題と社会保障制度 少子高齢化 制度改革					
7	高齢者保健福祉の動向 法体系					
8	介護保険制度①創設背景・目的 しくみの理解					
9	介護保険制度②組織・団体・介護支援専門員の役割					
10	介護保険制度③制度の動向					
11	障害者総合支援法 障害者法的定義 障害保健福祉動向					
12	障害者総合支援法 法体系 制度概要					小テスト
13	介護実践関連諸制度					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	小テスト		授業参加状況		
	70%	20%		10%		
学生へのメッセージ	法制度に苦手意識をもたず、日常的に報道に関心を持ち、社会の動向、課題について把握しておきましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
人間と社会	組織人間関係論	講義	30	1 年前期		久田晴實
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しながら共生する社会へ理解や、国際的な視野を養う学習とする。						
《達成目標》 ①様々な人々と相互に尊重しあいながら人間関係を作る考え方、スキルやツールを学ぶ。 ②人間関係構築場面を実際に演習やロールプレイングで体験し技量を高める。 ③人間関係の調整や人材育成法をチームで企画する文化祭イベントの場面で学ぶ。 ④「多職種連携・チームケア・回想法・遊びりテーション」等を意識したイベントを企画する。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 人間関係の基本①「挨拶の基本 初対面のあいさつ」					ファイル (授業開始時に配布) 必ず持参すること。 小テスト 実施の際は範囲を事前に予告します。 しっかり準備してください。
2	人間関係の基本②「挨拶の基本、立ち方と礼、上座と下座」小テスト①					
3	人間関係の基本③「はがきの礼状作成」介護百人一首について① 小テスト②					
4	(文化祭における活動に振替)					
5	人間関係の基本④「封書の礼状作成」小テスト③					
6	情報の伝達「電話」① 遊びりテーション説明 グループ作り 小テスト④					
7	情報の伝達「電話」② 小テスト⑤					
8	行事作りと運営①「組織立ち上げとミッション設定」					
9	行事作りと運営②「具体的な企画作りと準備」					
10	行事作りと運営③「準備継続とシミュレーション」介護百人一首について②					
11	行事作りと運営④「振り返りと評価 KJ 法で」					
12	情報の伝達のために 「正確で伝わる記録」					
13	定期試験					
14	(文化祭における活動に振替)					
15	授業の振り返り 重要事項の再確認 介護百人一首③					
使用テキスト	使用教科書はありません。授業配布のプリントを使います。必ずファイルしておいてください。					
評価内容	筆記試験	レポート課題提出	小テスト	授業参加状況		
	50%	20%	15%	15%		
学生へのメッセージ	実施した小テストの一部は定期試験でも出題します。重要語句はしっかりと覚えましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30/60	1 年前期		大澤町子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①「老人福祉法」が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を説明できる。 ②介護福祉の理念である、尊厳を支える介護、自立を支える介護、利用者主体について説明できる。 ③介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について、理解し説明できる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明、評価内容について、書類作成、自己紹介					
2	介護福祉士を取り巻く状況、介護の成り立ち			教科書 P 2 ～13 演習 1－1		
3	介護福祉職の多様化			教科書 P13～20		
4	介護福祉の歴史（老人福祉法の制定に至るまでの政策）			教科書 P21～30 小テスト実施		
5	1970 年代から 1980 年代までの社会福祉政策			教科書 P31～37 DVD 視聴		
6	1990 年代の社会福祉政策			教科書 P38～42 レポート作成		
7	2000 年以降の社会福祉政策			教科書 P42～52 小テスト実施		
8	介護福祉の基本理念			教科書 P53～63		
9	介護福祉士の役割と機能「社会福祉士及び介護福祉士法」			教科書 P68～76		
10	介護福祉士の活動の場と役割			教科書 P77～92		
11	介護福祉士に求められる役割とその養成			教科書 P 94～106 レポート作成		
12	介護福祉士を支える団体			教科書 P107～P115		
13	前期総復習、重要事項の確認			教科書 P2～115 試験範囲		
14	定期試験			前期試験		
15	定期試験の振り返り			解答解説		
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート課題提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、熱いハートとクールヘッド、笑顔とユーモアを忘れずに、利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30/60	1 年後期		大澤町子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①職業倫理と倫理判断の視点を学び、様々な介護の場面でどういさせるかを説明することができる。 ②日本介護福祉士会の倫理綱領や行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を説明することができる。 ③自立支援の考え方と意思決定を支える方法のエンパワメントと ICF の意義について説明できる。 ④ICF における生活機能と各因子との相互作用について理解でき説明することができる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 介護福祉士、介護実践における倫理			教科書 P118～P127		
2	高齢者虐待と生命倫理(悔悟の倫理)、認知症ケアの場面			教科書 P127～P135		
3	事例における倫理的な判断が必要な介護福祉士の対応			レポート作成提出		
4	日本介護福祉士会の倫理綱領			教科書 P136～P148		
5	自立に向けた介護、介護福祉士における自立支援			教科書 P152～P160		
6	生活意欲と活動、就労支援、自立と生活支援			教科書 P160～P171		
7	ICF の考え方。介護における ICF のとらえ方			教科書 P172～P179		
8	自立支援とリハビリテーション			教科書 P180～P191		
9	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割			教科書 P191～P197		
10	自立支援と介護予防			教科書 P198～P206		
11	介護予防の実際、DVD 視聴			教科書 P207～P189		
12	介護予防における介護福祉士の役割、DVD 視聴（続）			教科書 P213～P215 ポート作成提出		
13	後期総復習（重要事項の確認）			教科書 P118～P215		
14	定期試験			後期試験		
15	定期試験の振り返り			解答解説		
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」（第 2 版）中央法規出版				
評価		筆記試験	レポート課題提出	小テスト		
		60%	20%	20%		
学生へのメッセージ		豊かな知識と確かな技術、熱いハートとクールヘッド、笑顔とユーモアを忘れずに、利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう。				
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅱ	講義	30/60	1 年前期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解ができる。 ②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解することができる。 ③生活上の課題のために必要なサービスや地域の社会資源を理解し、説明することができる。 ④多職種の役割を理解することができる。⑤介護における安全の確保が理解することができる。						
回数	授業計画			備考（授業内でのポイント）		
1	授業概要説明 介護福祉を必要とする人の生活			p 2 【レポート①】		
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし			p 17 【レポート②】		
3	その人らしさと生活ニーズの理解			p 37 その人らしさ、自分らしさ		
4	利用者の生活を支えるしくみ			p 48		
5	フォーマルサービス 【小テスト①】			p 51 介護保険、施設、障害者総合支援法		
6	フォーマルサービス			p 51 介護保険、施設、障害者総合支援法		
7	インフォーマルサービス			p 84 自助、共助、互助、公助		
8	地域連携 【小テスト②】			p 71 地域包括ケアシステム 【レポート③】		
9	振り返り			p 74～79 民生委員・児童委員 他 p 81		
10	介護における安全の確保の確保とリスクマネジメント			p 88 事故報告書、ヒヤリハット		
11	介護における安全の確保の確保とリスクマネジメント			p 98 身体拘束		
12	リスクマネジメント 【小テスト③、④】					
13	多職種の役割と機能			p 173 看護師、介護支援専門員 等		
14	定期試験			10 回目に定期試験の範囲を告知します。		
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」（第 2 版）中央法規出版				
評価		筆記試験		レポート課題提出		小テスト
		60%		20%		20%
学生へのメッセージ		介護を必要とする人の生活を支援する専門職としての考え方を学び、『生活ニーズ』と『そのひとらしさ』が大切にする基本を学びましょう。				
実務経験と科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅱ	講義	30/60	1 年後期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》①多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解ができる。 ②多職種の役割を理解し、説明することができる。 ③介護における安全性の確保とリスクマネジメントの必要性を理解することができる。 ④介護従事者の安全について知ることができる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 多職種の役割と機能			p 176 多職種を理解する		
2	多職種協働の必要性と目的			p 146 連携、協働		
3	多職種連携協働の意義			p 147 多職種連携が必要な理由		
4	多職種連携協働に求められる能力			p 158 チームづくり		
5	多職種協働に求められるコミュニケーション能力			p 169 聴くスキル、伝えるスキル		
6	多職種の役割と機能			p 176 多職種を理解する【レポート①】		
7	【小テスト①】 振り返り					
8	介護従事者の安全① 健康管理の意義と目的			p 208 労働基準法他 【レポート②】		
9	介護従事者の安全② 出産育児介護にかかわる法制度			p 211 1～5 覚える		
10	介護従事者の安全③ 健康問題 【小テスト②】			p 213		
11	介護従事者の安全④ 食事の管理、睡眠の管理			p 217		
12	介護従事者の安全⑤ こころの健康管理			p 222 うつ、燃え尽き症候群 【レポート③】		
13	介護従事者の安全⑥ 身体の健康管理			(持)汗拭きタオル、着替え【レポ④】		
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」(第 2 版) 中央法規出版				
評価	筆記試験		レポート課題提出		小テスト	
	50%		20%		30%	
学生への メッセージ		多職種協働の必要性の歴史背景を理解し介護従事者の心や体の健康管理を学び、卒業後の就職に向けて学びましょう。第 10 回目に定期試験の範囲を告知します。				
実務経験と 科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅲ（医療と介護）	講義	30	1 年前期		竹内麻貴
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》①医療と介護の関係を理解でき、医療倫理を考えられる。 ②医療保険制度、地域包括ケアシステムを理解できる。 ③医療と介護における多職種連携の必要性を理解できる。 ④医療的ケア、医行為、終末期医療を理解できる。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 医療と介護 多職種連携の必要性					
2	医療の歴史					
3	私たちの生活と医療 医療保険制度					
4	私たちの生活と医療 病院のしくみ①					
5	私たちの生活と医療 病院のしくみ②					
6	私たちの生活と医療 病院のしくみ③					
7	医療法 医療施設 病院 診療所 保健所①					
8	医療法 医療施設 病院 診療所 保健所②					
9	医療における専門職 地域ケア包括システムと在宅医療					
10	医療における専門職 地域ケア包括システムと在宅医療					
11	医療事業 救急医療 災害医療 へき地医療①					
12	医療事業 救急医療 災害医療 へき地医療②					
13	総復習					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	授業用プリントを配布、使用します。					
評価	筆記試験	レポート課題提出	授業参加状況	グループワーク		
	80%	10%	5%	5%		
学生への メッセージ	医療と介護（病院と介護施設や在宅）の違いを理解することがポイントです。講義形態はただ覚えるだけではなく、グループ ディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護の基本Ⅳ (リハビリテーション)	講義	30	1 年後期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、 介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。						
《達成目標》①リハビリテーションの意義や目的、介護予防を説明できる。 ②対象者のできることを活かす視点、技術を介護実践に関連づけることができる。 ③ひとのあるべき姿を理解し対象者の尊厳を尊重した介護実践ができる。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明、リハビリテーションの概念・理念とは、 介護福祉士がリハビリテーションを学ぶ意義				資料あり テキスト P155～	
2	リハビリテーションの体系・種類・内容 リハビリテーションにかかわる職種				〃 P184～	
3	リハビリテーションの領域 チームアプローチ				〃 P186～	
4	障害の理解と評価 ADL IADL QOL の概念				〃 P190～	
5	リハビリテーションにおける自立支援 臥位・座位・立位・歩行				資料あり	
6	身体障害のある方からの講演（日常生活と仕事等）				資料あり	
7	生活リハビリテーション セルフケア援助、移動動作の援助、 コミュニケーションの援助、日常生活関連動作の援助				資料あり	
8						
9	臥位から背面座位まで 背面解放座位の効果				資料あり	
10	高齢者の特徴 介護予防 介護総合評価				資料あり	
11	高齢者に多い疾患（パーキンソン病・脳卒中・大腿骨頸部骨折）と リハビリテーション				資料あり	
12						
13	関節可動域訓練				資料あり	
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」（第 2 版）中央法規出版				
評価	筆記試験	レポート課題提出	小テスト	リアクションペーパー提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生への メッセージ		どのような状況でも対象者が「できること」「可能性」に気づき、活かす視点と想像 する介護を学びます。予習復習をしましょう。				
実務経験と 科目との関連		実務経験を生かし、関係職種との連携をはかりながら対象者の「尊厳の保持」 「自立支援」を実践する力の基礎となる考え方ができる授業を行う。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	30	1年後期		渡邊尚太
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。						
《達成目標》①介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する とともに利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。 ②介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ③さまざまなコミュニケーション技法、話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法 など）について理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業のねらいと概要を説明 「介護におけるコミュニケーションの基本①」 コミュニケーションの意義と目的					P2～
2	「　　　　　　　　　　　　　　　②」 介護福祉士のコミュニケーション					P6～
3	「援助関係とコミュニケーション」 援助をするということはどういうことなのか					P11～
4	「コミュニケーション態度に関する基本技術①」 傾聴とは					P22～
5	「　　　　　　　　　　　　　　　②」 受容と共感					P28～
6	「言語。非言語・準言語コミュニケーション」					P35～
7	「目的別のコミュニケーション技術①」 利用者の意欲を高めるための動機づけ					P43～
8	「　　　　　　　　　　　　　　　②」 意思決定を支援するための基本的な考え					P52～
9	「介護現場におけるコミュニケーション①」 映画視聴					
10	「　　　　　　　　　　　　　　　②」 映画視聴					
11	「集団におけるコミュニケーション技術①」 集団の意義					P59～71
12	「　　　　　　　　　　　　　　　②」 集団運営の留意点					P59～71
13	「生活支援における介護技術とコミュニケーション」 動画鑑賞「バリデーション」「ユマニチュード」					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験			授業参加状況		
	80%			20%		
学生へのメッセージ	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法等について、介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築くテクニックの学習をしましょう。信頼の基本はコミュニケーション技術です。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	コミュニケーション技術Ⅱ	講義	30	2 年前期		渡邊尚太
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。						
《達成目標》①介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者とその家族あるいは多職種協働でのコミュニケーション能力を身につける。 ②介護を必要とする利用者のそれぞれの状態を理解し、それに応じたコミュニケーション技法を習得する。 ③利用者・家族との関係づくりについて理解する。						
回数	授業計画					備考
1	授業の概要を説明「利用者の特性に応じたコミュニケーション」 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害					P70～78
2	〃 ①視覚障害・聴覚障害・構音障害					P79～91
3	〃 ②失語症・認知症					P92～105
4	〃 ③認知症					P106～116
5	〃 ④認知症・精神障害					P117～126
6	〃 ⑤精神症障害・知的障害					P127～133
7	〃 ⑥知的障害・発達障害					P134～141
8	〃 ⑦高次脳機能障害・重症心身障害					P142～154
9	家族とのコミュニケーション①家族との関係づくり・家族への助言・指導・調整					P155～183
10	家族関係と介護ストレスへの対応 介護におけるチームのコミュニケーション①					P186～200
11	〃 ②介護における記録の意義と目的					P201～228
12	〃 ③会議・議事進行・説明の技術					P229～242
13	〃 ④事例検討に関する技術・情報の活用					P243～255
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験		授業参加状況			
	80%		20%			
学生へのメッセージ	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法等について、介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築くテクニックの学習をしましょう。信頼の基本はコミュニケーション技術です。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ－①（住居）	演習	10/30	1年後期		山本和広
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得できる学習とする。						
《達成目標》 ①住まいの多様性を理解できる。 ②生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。 ③一番身近なトイレを、どのように改修するかを答えられる（絵に書ける）ようにする。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 住まいの役割と機能		P38～P46		小テスト	
2	居住環境の整備 加齢と生活空間		P46～P53		小テスト	
3	居住環境の整備 快適な室内環境		P54～P63		小テスト	
4	居住環境の整備 住まいの維持・管理		P64～P72		小テスト	
5	定期試験・定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（第2版）中央法規出版				
評価	筆記試験		レポート課題提出		小テスト	授業参加状況
	80%		補講がある場合		10%	10%
学生へのメッセージ		試験用紙には空欄をつくらず、何かを書く。書かずに提出しない。				
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者	
介護	生活支援技術Ⅰ-① (家庭生活)(被服)	演習	20/30	1年後期		飯田敬子	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。							
《達成目標》(家庭生活) ①さまざまな高齢者の生活を知り理解することができる。 ②高齢者の生活を支援するために必要な心構えを知ることができる。 ③高齢者に起こりえる事故の予防と予防の観点を把握し知識と技術を理解することができる。							
《達成目標》(被服) ①家事(洗濯)を自立的に支援するための基本的な知識と技術を理解することができる。 ②衣類に付いている洗濯絵表示を理解し適切な洗濯方法を理解することができる。							
回数	授業計画			備考			
家庭生活 1	授業概要説明 家庭経営 家計管理 クーリング オフ 悪徳商法			教科書 P251－P254			
2	自立に向けた家事の介助(買い物・掃除・ごみ捨て)			教科書 P220－P226 P248－P251 P237－P239			
3	応急手当の知識と技術、災害時における生活支援			教科書 P266－P277 P280－P306			
4	掃除と掃除用具の使用実習						
5	後期定期試験 後期に学習した内容のまとめ			試験範囲の学習			
被 服 1	授業概要説明 繊維の種類、取り扱い絵表示の 確認、衣類の点検・分類の方法			配布資料を通読しておく			
2	自分の洗濯方法を確認する、洗濯絵表示・取り扱い 表示を確認する(配布用紙に記入し提出)			レポート提出			
3	衣類の収納・たたみ方の実習						
4	アイロンがけの実習						
5	後期定期試験 後期に学習した内容のまとめ						
使用テキスト		新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」(第2版)中央法規出版					
評価	家庭生活	筆記試験	授業参加状況	被服	筆記試験	レポート提出	授業参加状況
		60%	40%		60%	10%	30%
学生への メッセージ		高齢者の想定される生活を幅広く学ぶことで、介護の知識や技術を高めていき ましょう。洗濯の知識を総合的に理解すると共に生活支援技術の授業を行う。					
実務経験と 科目との関連							

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ－②（住居）	演習	16/60	2年前期		山本和広
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践をおこなうための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①住まいの多様性が理解できる。生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。 ②玄関、廊下、トイレ、浴室等の、1.段差の解消、2.開き戸を引戸へ取替、3.手摺の取付、の理解ができる。 ③ユニバーサルデザインの身近な利用例や、介護保険の支給限度額がわかるようにする。						
回数	授業計画					備考
1	居住環境の整備における他職種との連携 P73～P80					小テスト
2	実習1 学校から駅までの障害					レポート
3	実習2 快適な室内環境・環境整備グループ討議					小テスト
4	実習3 学校の中の危険					レポート
5	実習4 介護保険の特例・ケアマネの理由書作成					レポート
6	実習5 バリアフリー新法の実例の見学					レポート
7	実習6 色について					レポート
8	定期試験・定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（第2版）中央法規出版				
評価		筆記試験	レポート提出	小テスト	授業参加状況	
		70%	10%	10%	10%	
学生へのメッセージ		とにかく、いろいろなものを見る事で、それが何であるかを理解する。				
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ－②（被服）	演習	12/60	2年前期		飯田敬子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学習とする。						
《達成目標》 ①家事（裁縫）の基本的な知識・技術を理解することができる。 ②基本的な技術でできる袋物の作品を作ることができる。 ③裁縫用具を安全に使用することができる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要説明 衣類のトラブル対応法、衣類の補修・基本縫い					
2	基本縫い（玉止め、玉結び、なみ縫い、返し縫）の実習					
3	基本縫い（玉止め、玉結び、なみ縫い、返し縫）の実習					
4	基本縫い（まつり縫い、ボタン付け、ひも通し、ミシンかけ）の実習					
5	基本縫い（まつり縫い、ボタン付け、ひも通し、ミシンかけ）の実習					
6	アイロンがけ、作品を仕上げ提出する。					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験		授業参加状況		作品・課題	
	なし		40%		60%	
学生へのメッセージ	授業で実習した「衣類の補修」自宅で該当するものがあったら実施し、経験値を高めてください。身の回りにある衣類の補修を日常的に行う事に役立つ授業を行う。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ－②（栄養調理）	演習	16/60	2 年前期		飯田敬子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①家事（調理）を支援するための基本的な知識と技術を習得することができる。 ②調理用具を理解し安全に使用することができる。 ③仲間と協力し調理することができる。 ④使用した用具の洗浄・清掃ができる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 高齢者の特徴と食事。食の大切さ・健康作りのための食生活調理の意義。			エプロン、三角巾、マスク、布巾（2 枚）、手拭きタオル		
2	基本的な材料の切り方 米飯・煮込みハンバーグ・コンスープ・トマトサラダ・プリン			事前に配布した調理手順を通読しておく。		
3	食品の保存、食中毒の予防と種類、残物の分類。					
4	計量の仕方 米飯・肉じゃが・みそ汁・茶碗蒸し・さんさん饅頭			事前配布の調理手順を通読しておく。		
5	栄養素の種類と働きを理解する。					
6	五目おこわ・ささみの梅肉あえ・けんちん汁・水ようかん			事前配布の調理手順を通読しておく。		
7	前期定期試験			配布資料を読み返し、試験に臨む。		
8	常備食材で簡単にできる 1 食を作る（残り材料の利用、電子レンジの利用）			残り材料での一品を考える。		
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」（第 2 版）中央法規出版				
評価		筆記試験		レポート提出		授業参加状況
		50%		10%		40%
学生へのメッセージ		身近な食材で手軽に調理することで手作りの楽しさを体験しましょう。自分自身の健康増進や介護職としてのスキルの向上を図ることができる。				
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅰ－②（家庭生活）	演習	16/60	2年前期		鈴木真一
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 福祉用具や福祉機器を活用する意義やその目的を理解する。介護を必要とする方の能力に応じた福祉用具の選択と活用する知識を習得し、安全に活用できる介護技術や知識を得る。						
《達成目標》 ①福祉用具や福祉機器を活用する意義・目的を理解し、生活の中での活用や可能性についても考えられる ②それぞれの障害にあった介護技術を習得するとともに、実際に福祉用具を見て、触って、体験し、安全に活用できる。 ③介護を必要とする方の、生活の中でのリハビリの重要性を理解できる。 ④超高齢者社会の到来を目の前にし、どのような心構えが必要かを考えられる。						
回数	授業計画			備考		
1	オリエンテーション、生活支援における福祉用具の重要性 ～ 福祉用具とは何か			教室で行います		
2	生活支援における福祉用具の重要性 ～ 福祉用具とは何か			教室で行います		
3	福祉用具の種類			演習 実習棟で行います		
4	福祉用具の種類			演習 実習棟で行います		
5	福祉用具を選ぶための視点、福祉用具専門員の役割			福祉用具専門員の役割、移動用リフトの演習 実習棟で行います		
6	福祉用具を選ぶ視点			福祉用具専門員の役割、移動用リフトの演習 実習棟で行います		
7	在宅、施設における福祉用具の将来性について			演習 実習棟で行います		
8	前期試験 学習した内容の振り返り 授業の理解度の確認			2階で行います		
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験		レポート提出			
	60%		40%			
学生へのメッセージ	インターネット技術を活用する ICT や IoT、AI を取り入れることにより、これまで人が時間をかけて行っていた業務を効率よく行うことができると期待され、業務の効率化が求められている介護業界ではシステム化が推進されています。それにより、介護現場での働き方が急速に変わってきていますので、日々の情報収集、先を見通す力は大切です。※実習棟で行う日は動きやすい服装でお願いします。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅱ－①	演習	30	1 年前期	○	池上千恵美 鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①生活支援の理解ができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。④ベットメイキングが1人でできる。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 生活支援の理解					
2	根拠に基づく生活支援 利用者主体の生活支援の実践					
3	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ①					
4	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ②					
5	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ③					
6	自立に向けた休息と睡眠の介護 ベットメイキング ④					
7	自立に向けた身じたくの介護 意義と目的 ドライヤー				(持)くるぶし以上の靴下	
8	自立に向けた身じたくの介護 衣服着脱、 浅座り				(持)前開きの服	
9	自立に向けた移動の介護 立ち上がり時、体位、体位変換					
10	自立に向けた食事の介護 意義と目的 食事、とろみ体験				(持)飲み物	
11	自立に向けた排泄の介護 意義と目的 パット体験					
12	実技試験					
13	実技試験					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 実習前の確認					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」(第2版) 中央法規出版				
評価		筆記試験		レポート課題提出		実技試験
		30%		30%		40%
評価補足		筆記試験は 60 点以下再試、実技試験も同様に再試がある。実技試験は、授業内に提示する。レポート提出は実技の内容をまとめ次の授業開始前に回収します。				
実務経験と科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅱ－②	演習	60/60	1年後期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》①生活支援の理解ができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。 ④ベットメイキングがひとりでできる。						
回数	授業計画				備考	
1/2	休息睡眠の介護、ベッド上に臥床している時のシーツ交換				復習：体位変換	
3/4	自立に向けた身じたくの介護 片麻痺の衣服着脱					
5/6	自立に向けた移動の介護 臥床時の起き上がり					
7/8	自立に向けた入浴の介護 意義と目的 / 手浴・足浴				洗身、洗髪の流れ (持)フェイスタオル	
9/10	女性機械浴 / 男性機械浴				※国家試験問題	
11/12	部分清拭 / 全身清拭 / 臥床時の衣服着脱					
13/14	自立に向けた身じたくの介護 / 臥床時の衣服着脱					
15/16	自立に向けた移動の介護 杖の使い方/車椅子の使い方				坂道、段差	
17/18	自立に向けた移動の介護 ベッドから車いす/体位交換				スライディングシート使用	
19/20	自立に向けた排泄の意義と目的 おむつ交換、体位交換①					
21/22	自立に向けた食事の介護 誤嚥、窒息防止 食事介助				(持)大スプーン1本、小スプーン	
23/24	自立に向けた排泄の意義と目的 おむつ交換、体位交換②					
25/26	実技試験					
27/28	定期試験					
29/30	定期試験の振り返り 実習前の確認					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」(第2版)中央法規出版				
評価		筆記試験		レポート提出		実技試験
		30%		30%		40%
評価補足		筆記試験は 60 点以下再試、実技試験は 40 点中 30 点以下再試とする。危険行為はその場で中止とし、再試とする。レポート提出は、実技の内容をまとめ、次の授業開始前に回収します。				
実務経験と科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅱ－③	演習	60/60	2年前期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》①生活支援の理解することができる。 ②対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。 ③人生の最終段階におけるケアチームを理解し、健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解することができる。						
回数	授業計画					
1/2	授業説明 睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠と薬					
3/4	人生の最終段階の意義と介護の役割 / 多職種との連携★					
5/6	自立に向けた身じたくの介護 医行為ではない髭剃り、爪切り、耳の清潔介助					
7/8	自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種連携、自己導尿・座薬挿入・浣腸・ストーマ★					
9/10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 /自立に向けた移動の介護、安楽な体位、褥瘡予防					
11/12	移動の介護における多職種との連携 /自立に向けた食事の介護					
13/14	コミュニケーション技術 演習課題2つ					
15/16	移動の介護 演習課題 歩行介助、車いす移乗					
17/18	排泄の介護 演習課題 ポータブル排泄介助 /衣服の着脱介助 演習課題 座位の着脱介助					
19/20	衣服着脱の介護 演習課題 ベッド臥床時の着脱介助 /食事の介護 演習課題 食事の介助					
21/22	食事の介護 演習課題 食後の口腔ケア /入浴の介護 演習課題 入浴介助					
23/24	入浴の介護 演習課題 足浴介助 /実技試験に備えて、これまでの演習課題の復習					
25/26	実技試験					
27/28	定期試験					
29/30	定期試験の振り返り					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験		実技試験		レポート課題提出	
	30%		50%		20%	
評価補足	筆記試験は60点以下再試、実技試験は50点中40点以下再試とする。危険行為はその場で中止とし再試とする。レポート提出は実技の内容をまとめ次の授業開始前に回収します。					
実務経験と科目の関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅲ	演習	60/60	2年後期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする						
《達成目標》 ①さまざまな障害を理解し、適切な介護技術を選択することができる。 ②さまざまな障害を持つ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。 ③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業概要説明 利用者の状態・状況の応じた生活支援技術					
3/4	視覚・聴覚・言語障害に応じた介護					(持)油性マジック・長め定規
5/6	内部障害①② 心臓機能障害、呼吸機能障害					【小テスト①】
7/8	内部障害③④ 腎臓機能障害、膀胱直腸小腸機能障害					【小テスト②】
9/10	内部障害⑤⑥ 小腸機能障害、HIV による免疫機能障					【小テスト③】
11/12	内部障害⑦ 肝機能障害 、まとめ					【小テスト④】
13/14	重症心身障害に応じた介護 、知的障害に応じた介護					課題提出日
15/16	発達障害に応じた介護、障害の特性、発達段階、特徴					
17/18	精神障害に応じた介護。統合失調症、気分障害、高次脳機能障害					【小テスト⑤】
19/20	【難病】筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に応じた介護					【小テスト⑥】
21/22	【難病】悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーに応じた介護					【小テスト⑦】
23/24	障害のある方の在宅生活					【小テスト⑧】 レポート提出
25/26	認知症への人への介護					レポート提出
27/28	定期試験					
29/30	定期試験の振り返り 、 グループワーク					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」(第2版)中央法規出版					
評価	筆記試験		課題、レポート提出		小テスト	
	30%		30%		40%	
学生へのメッセージ	疾患や障害に応じた介護を学び、現場に出た時に必要な知識を勉強します。国家試験を意識し問題も授業内で行います。					
実務経験と科目との関連	特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅳ (アクティビティ・サービス)	演習	30/60	2 年前期		熊谷春枝
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①アクティビティ・サービスの定義、生活支援としてのアクティビティ・サービスを理解する。 ②アクティビティ・サービスが利用者の心身と生活の活性化・豊かさを支援することを理解する。 ③アクティビティ・サービスの計画ができる。						
回数	授業計画					備考
1	オリエンテーション 授業の進め方					
2	アクティビティ・サービスの定義					
3	アクティビティ・サービスの言葉の理解と誤解、セラピーとの違い					カレンダーの作成
4	垣内理論からアクティビティ・サービスへの生活の快と社会福祉の関係					
5	アクティビティ・サービスの効果① 心理的・生理的側面の効果 バリアフリー研究					小テスト
6	アクティビティ・サービスの効果② 文化的・社会的側面の効果 レポート					軍手人形 おしぼり犬 作成
7	アクティビティ・サービスの対象・すべての人に必要なサービス 日常生活支援の対象者と向き合うには					上記同様 人形劇説明
8	生活支援とアクティビティ・サービス① 生活支援学とアクティビティ・サービス					人形劇発表 学生準備
9	生活支援技術介護福祉士 第 1 節 P2～12					
10	生活支援学と介護過程 P13～21 人間学としての生活史					
11	日本におけるアクティビティ・サービスの誕生① 専門職に必要な『レクリエーション教育』の誕生					
12	日本におけるアクティビティ・サービスの誕生② 福祉レクリエーションからアクティビティ・サービスへ					
13	アクティビティ・サービスの計画 基本的な考え方					6 回目作成の提出
14	定期試験、アクティビティ・サービスの計画上の留意点					
15	定期試験の振り返り アクティビティ・サービスの計画の立案方法					後期授業説明
使用テキスト	「新訂 アクティビティ・サービス」中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート提出	小テスト	作品提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生への メッセージ	この授業が現場でどのような影響を与えるか考えながら参加してください。 ディスカッション等に参加する。次回の予習も兼ね復習を必ず行う。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	生活支援技術Ⅳ (アクティビティ・サービス)	演習	30/60	2年後期		熊谷春枝
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解できる。 ②ICFの視点が生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。 ③アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について理解できる。 ④アクティビティ・サービスの実践ができる。						
回数	授業計画					備考
1	オリエンテーション 授業の進め方					
2	アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について①					小テスト
3	アクティビティ・サービスにおけるICFと支援活動と参加 高齢者・障害者・認知症 軽スポーツプログラム作成・グループ					グループ活動 企画書作成
4	アクティビティ・サービスの実践 高齢者・障害者・認知症 軽スポーツ					室内スポーツ
5	第1節 生活支援技術基本的考え方・アクティビティ・サービスの基本					小テスト・卒業レポート
6	演習① 特別養護老人ホームの個別支援・クラフト割りばしで思い出作り					割りばし・ボンド
7	演習② 通所介護の集団支援ミニゲーム・グループ活動(認知症参加)					
8	演習③ アクティビティ・サービスのプログラム 重症心身障害児プログラム					テキスト P95
9	アクティビティ・サービスの作成方法と留意点 定期試験説明					テキスト P97 卒業レポート提出
10	利用者主体の生活支援技術の実践に向けて① 生活支援技術Ⅰ P22～28					
11	生活支援とチームアプローチ② 生活支援技術Ⅰ P29～36					
12	演習④ アクティビティ・サービスの介護過程					小テスト P154～156
13	アクティビティ・サービスの計画 資料研究歴史的分析					
14	定期試験、アクティビティ・サービス 生活支援技術Ⅰ					
15	定期試験の振り返り アクティビティ・サービス 生活支援技術Ⅰまとめ					
使用テキスト		「新訂 アクティビティ・サービス」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」(第2版)中央法規出版				
評価		筆記試験	レポート課題提出	小テスト	作品提出	
		60%	10%	20%	10%	
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅰ－①	講義	30	1年前期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①介護過程の意義と目的を理解できる。 ②介護過程の展開を理解できる。 ③事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護過程とは何か。					
2	介護過程を理解する準備 他者とのかかわることを考える。					
3	介護過程の準備 相手の立場になって考える。共感的理解 利用者の願いや思いに気づく。					
4	介護過程の理解 介護過程の意義 目的					
5	介護過程の理解 介護過程の全体像					
6	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）と ICF					小テスト
7	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）					
8	介護過程の展開 アセスメント（情報収集）					
9	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					小テスト
10	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					
11	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					
12	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）					小テスト
13	介護過程の展開 アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化） 生活課題優先順位					
14	前期試験					
15	前期試験解説					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」（第2版）中央法規出版				
評価	筆記試験		介護過程の展開	小テスト	授業参加状況	
	50%		30%	10%	10%	
学生へのメッセージ		介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。				
実務経験と 科目との関連		介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の基礎が理解できる授業を行う。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅰ－②	講義	60/60	1年後期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
《達成目標》①既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 ②利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業説明 介護を必要とする人の理解					2回目小テスト
3/4	介護を必要とする人の理解 介護過程の展開 アセスメント生活課題の明確化					
5/6	介護過程の展開 アセスメント 生活課題の明確化 生活課題優先順位					
7/8	介護過程の展開 個別援助計画の意義・目的 計画立案 目標 支援内容・支援方法					
9/10	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					9回目小テスト
11/12	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
13/14	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
15/16	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
17/18	介護過程の展開 事例1の個別援助計画を立案する。					
19/20	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					20回目小テスト
21/22	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
23/24	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
25/26	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
27/28	後期試験 介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。					
29/30	介護過程の展開 事例2の個別援助計画を立案する。 まとめ					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座9「介護過程」(第2版)中央法規出版				
評価	筆記試験	介護過程の展開		小テスト	授業参加状況	
	40%	40%		10%	10%	
学生へのメッセージ		介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。				
実務経験と 科目との関連		介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の基礎が理解できる授業を行う。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護過程Ⅱ	講義	60/60	2 年前期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 ②利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。 ③計画を実施し、実施に基づく記録と評価ができる。						
回数	授業計画					備考
1/2	授業説明 介護過程とケアマネジメント ケアプランと個別援助計画 チームアプローチにおける介護福祉士の役割					小テスト
3/4	介護過程とケアマネジメント アセスメント（情報収集～生活課題明確化） ICF の視点					小テスト
5/6	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画を立案する。					
7/8	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画を立案する。					
9/10	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画を立案する。					
11/12	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画を立案する。					
13/14	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画を立案する。					
15/16	事例 J さんの個別援助計画 実施の意義 実施の留意点 実施の記録 記録の留意点 評価の意義と目的 評価の留意点					
17/18	介護過程の展開 事例 J さんの個別援助計画 実施 記録 評価					小テスト
19/20	介護過程の展開 事例 A さんの個別援助計画を立案する。					
21/22	介護過程の展開 事例 A さんの個別援助計画を立案する。					
23/24	介護過程の展開 事例 A さんの個別援助計画を立案する。					
25/26	介護過程の展開 事例 A さんの個別援助計画を立案する。					
27/28	前期試験 介護過程の展開 事例 A さんの個別援助計画 実施 記録 評価					
29/30	前期試験解説 介護過程と課題解決思考 認知症の人の事例を考える。					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」（第 2 版）中央法規出版				
評価	筆記試験	介護過程の展開		小テスト	授業参加状況	
	40%	40%		10%	10%	
学生へのメッセージ		介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。				
実務経験と 科目との関連		介護福祉士としての実務経験を生かし、介護過程の意義と目的、介護過程展開の基礎が理解できる授業を行う。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30/60	1年前期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護実習Ⅰ-①の実習学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめることができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 介護総合演習の位置づけ、意義と目的				p 2～	
2	介護実習の流れ 介護実習施設の利用者理解と学び					
3	介護実習施設の理解 (特別養護老人ホーム、老人保健施設)					
4	障害者支援施設、通所介護、通所リハビリテーション)					
5	利用者の理解 (利用者がわかる自己紹介を考える)					
6	利用者の理解 (利用者がわかる自己紹介を考える)					
7	利用者の理解 まとめ				【発表】	
8	介護実習Ⅰ-①の事前準備 目的と目標、学習個人票作成				※実習施設発表＜持＞個人票写真 2枚	
9	介護実習Ⅰ-①の事前準備 実習施設概要の作成、書類準備				授業内に提出	
10	介護実習Ⅰ-①の事前準備 事前訪問の目的・方法				※お礼状の書き方、電話のかけ方	
11	介護実習Ⅰ-①の事前準備 実習記録の意義と目的 ・作成					
12	介護実習記録作成				授業内に提出 ※細菌検査の説明	
13	介護実習記録作成				授業内に提出	
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」(第2版)中央法規出版				
評価		筆記試験	実習での学び発表		実習書類・記録・提出物	
		40%	30%		30%	
学生への メッセージ		介護実習は1・2年とあります。各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。				
実務経験と 科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30/60	1年後期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護実習Ⅰ-②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめ発表することができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明 介護実習Ⅰ-①の振り返り				p2～	
2	介護実習Ⅰ-①の報告書作成					
3	介護実習Ⅰ-①の報告書作成					
4	介護実習Ⅰ-① 報告会				【発表】	
5						
6						
7	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習Ⅰ-②の目的・方法				<持>個人票の写真2枚	
8	介護実習Ⅰ-②の事前準備 目的と目標、学習個人票作成				※実習施設発表 個人票提出	
9	介護実習Ⅰ-②の事前準備 実習施設概要の作成・書類準備				授業内に施設個人票提出 (清書)	
10	介護実習Ⅰ-②の事前準備 施設の理解 施設概要作成				授業内に施設概要提出	
11	介護実習Ⅰ-①の事前準備 実習記録の意義と目的・作成					
12	介護実習記録作成				授業内に提出※細菌検査の 説明	
13	介護実習記録作成 日々の自習目標 振り返り				授業内に提出	
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」(第2版)中央法規出版				
評価		筆記試験	実習での学びの発表		実習書類・記録・提出物	
		40%	30%		30%	
学生への メッセージ		介護実習は1・2年とあります。各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。				
実務経験と 科目との関連		介護福祉士の資格を取得後、特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅱ	演習	30	2年前期	○	鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護実習Ⅱ-②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成させる。 ②毎日の目標、記録類を具体的に書くことができる。 ③実習の振り返りを自分の言葉でまとめ発表することができる。 ④介護を必要とする方への様々な場面に必要とさせている介護の基本的な知識・技術を習得する。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 介護実習Ⅰ-②の振り返り			p2～		
2	介護実習Ⅰ-②の報告書作成					
3	介護実習Ⅰ-① 報告会			【発表】		
4						
5						
6	介護実習Ⅰ-③意義目的 訪問介護の特徴 実習先での学び					
7	介護実習Ⅱの展開 介護実習Ⅱの意義と目的 夜間介護			<持>個人票の写真2枚		
8	介護実習Ⅱの展開 実習目標設定 学生個人票の作成			※実習施設発表		
9	介護実習Ⅱの展開 事前準備 実習施設概要の作成、			授業内に施設個人票提出（清書）		
10	介護実習Ⅰ-③ 必要な書類準備 個人票作成、訪問介護議場所作成 訪問介護実習記録方法			<持>個人票の写真2枚		
11	介護実習中の学習の内容と方法 不測事態の対応			授業内に施設個人票提出（清書）		
12	実習への態度、目標、観察と考察、報告 連絡 相談			※細菌検査の説明		
13	介護実習Ⅱの記録 実習目標 振り返り					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り 事後指導について					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」（第2版）中央法規出版				
評価	筆記試験		実習での学びの発表		実習書類・記録・提出物	
	40%		30%		30%	
学生へのメッセージ		介護実習は1・2年とあります。各自健康管理し、自分が行く実習先の特徴など事前に調べましょう。持ち物や提出期限は守り、実習前に身だしなみの確認をします。				
実務経験と科目との関連		特別養護老人ホームの経験を経て、デイサービス、認知症対応型共同生活介護での生活相談員、管理者経験を生かして教授する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護総合演習Ⅲ（卒業研究）	演習	30	2年後期	○	池上千恵美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。						
《達成目標》 ①実習Ⅱの個別援助計画をまとめ論文を作成し発表できる。 ②これまでの介護実習、学内での学びから介護観を形成できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業説明 介護実習Ⅱの振り返り 卒業研究としての介護事例研究の説明 研究の意義と目的・方法					
2	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
3	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
4	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
5	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
6	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
7	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
8	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
9	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
10	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
11	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
12	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
13	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
14	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる					
15	卒業研究発表会練習					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」（第2版）中央法規出版				
評価		研究論文	発表	授業参加状況		
		70%	20%	10%		
学生へのメッセージ		卒業研究論文作成は計画的に取り組む。研究の喜びや楽しさを知ってほしい。				
実務経験と科目との関連		介護福祉士資格を有する者として、実務経験の観点から指導する。				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅰ－①	実習	80	1年前期	○	池上千恵美、中島裕子、鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護サービスを利用している人たちがどのようなところで、どのような暮らしをしているのか。 ②どのような専門職が利用者を支えているのかを理解する。						
授業計画						備考
介護実習Ⅰ－①は次の目標をもち、実習形式で1年生前期に10日間行う。 1. 利用者の暮らしの場が理解できる。 2. 介護サービスの利用者と出会うことができる。 ①利用者の個別性を理解する。 ②利用者の存在を正しく理解する。 3. 生活支援の場を知ることができる。 ①日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。 ②多職種協働・連携を理解する。 4. コミュニケーションの大切さを知ることができる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」(第2版) 中央法規出版					
評価	施設側指導者評価、学生自己評価、学校指導教員評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。					
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士、看護師の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅰ－②	実習	152	1年後期	○	池上千恵美、中島裕子、鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①それぞれの暮らしの場で個々の利用者の心身の状況に応じた基本的な生活支援技術の実践ができる。 ②個別援助計画を立案できる。						
授業計画						備考
介護実習Ⅰ－②は次の目標をもち、実習形式で1年生後期に19日間行う。 1. 利用者の状態像（高齢者・障害者・認知症のある人）を観察することができる。 2. 利用者の生活の課題を理解することができる。 3. 安全性と快適性に配慮した基本的な生活支援技術を実践することができる。 4. 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。 5. 個別援助計画を立案できる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」（第2版）中央法規出版					
評価	施設側指導者評価、学生自己評価、学校指導教員評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。					
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士、看護師の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅰ－③	実習	32	2年前期	○	池上千恵美、中島裕子、鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①利用者を取り巻く家族や地域との関係に注目できる。 ②利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。						
授業計画						備考
介護実習Ⅰ－③は次の目標をもち、実習形式で2年生前期に、訪問介護事業所等において4日間行う。 1. 利用者とその家族の生活状況を理解できる。 2. 居宅サービス計画に基づいた訪問介護サービスであることを理解できる。 3. 利用者に関わっている多職種の役割を理解できる。 4. 訪問介護における介護福祉士の役割を理解できる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」（第2版）中央法規出版					
評価	施設側指導者評価、学生自己評価、学校指導教員評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。					
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士、看護師の実務経験を有するものとして、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
介護	介護実習Ⅱ	実習	192	2年前期	○	池上千恵美 中島裕子 鯉沼聡美
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う学習とする。						
《達成目標》 ①介護過程を展開できる。 ②個別ケアの意味を考え生活支援技術を実践できる。 ③多職種協働・連携の重要性を理解できる。 ④生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できる。						
授業計画						備考
介護実習Ⅱは次の目標をもち、実習形式で2年生前期に24日間行う。 1. 介護過程を展開できる。 ①観察、コミュニケーション、記録類を通して介護に必要な情報が収集できる。 ②一つ一つの情報のもつ意味を理解し、情報同士の関連付けができる。 ③利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる。 ④利用者や多職種とともに介護計画が立案できる。 ⑤利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる。 ⑥介護目標が達成できたかの評価ができる。 ⑦具体的な支援内容が適切であったかの評価できる。 ⑧計画を修正する必要があるかの判断ができる。 2. 個別ケアの意味を考えて生活支援技術が実践できる。 3. カンファレンスを通じて多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 夜間介護を体験し、24時間を通しての利用者支援の実際を理解できる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」（第2版）中央法規出版					
評価	施設側指導者評価、学生自己評価、学校指導教員評価、実習記録、出席状況、カンファレンス参加状況などにより総合評価する。					
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。					
実務経験と科目との関連	介護福祉士、看護師の実務経験を有する者として、実務経験の観点から指導する。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	60/60	1年前期		竹内麻貴
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
《達成目標》 ①健康の概念を理解することができる。 ②身体の構造と機能について理解することができる。 ③こころ（心理、精神）のしくみを理解することができる。 ④終末期や死について理解し、他職種との連携、介護および家族ケアを考えることができる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明・シラバスや授業運営について 自己紹介					
2	健康について・定義・ホメオスタシス					
3	こころのしくみの基礎 ① 人間の欲求と自己実現			小テスト（確認プリント）		
4	〃 ② こころとは何か・脳のしくみ					
5	〃 ③ 感情・記憶・学習等			小テスト（確認プリント）		
6	〃 ④ 認知・適応のしくみ					
7	〃 ⑤ こころのしくみのまとめ					
8	〃 ⑥ こころのしくみのまとめ			小テスト（確認プリント）		
9	心身の調和について 遺伝・脳・神経					
10	からだのしくみの理解 ① 人体の構造					
11	〃 ②骨格系～骨格・筋・関節			小テスト（確認プリント）		
12	〃 ③感覚器(眼・耳・嗅覚・味覚・皮膚等)について					
13	〃 ④ 〃			小テスト（確認プリント）		
14	〃 ⑤呼吸器系(肺・呼吸のしくみ・呼吸器疾患)					
15	〃 ⑥ 〃			小テスト（確認プリント）		
16	〃 ⑦消化器系(口・食道・胃・小腸・大腸・肛門・肝臓・胆のう・膵臓のしくみと疾患)					
17	〃 ⑧ 〃			小テスト（確認プリント）		
18	〃 ⑨泌尿器系(腎・尿管・膀胱・尿道・排尿のしくみと疾患)					
19	〃 ⑩ 〃			小テスト(確認プリント)		
20	〃 ⑪生殖器と内分泌（ホルモン）について					

21	からだのしくみの理解 ⑫循環器系(心臓・血液・リンパのしくみと疾患)			
22	〃	⑬	〃	小テスト(確認プリント)
23	死にゆく人に関連したしくみ ① 死の理解			
24	〃	②終末期から「死」までの変化と特徴		小テスト(確認プリント)
25	〃	③死の理解、終末期から「死」までの変化と特徴		
26	〃	④家族のケア、医療職と介護職との役割と連携		
27	〃	⑤	〃	
28	〃	⑥	〃	
29	定期試験			
30	定期試験の振り返り			
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」(第2版) 中央法規出版		
評価	筆記試験		提出物	小テスト
	80%		10%	10%
学生へのメッセージ	学習内容は暗記が多く、国家試験においても重要項目の一つです。ただむやみに覚えるのではなく、考えることで仕組みを納得して理解し覚えていく方式で行います。そのためプリントでの確認を行っていきます。グループディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。			
実務経験と科目との関連				

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅡ	講義	30	2 年後期		野間貴大
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 要介護者の生活支援、心理的支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解を通して人間観を養う学習とする						
《達成目標》 ①こころのからだのしくみⅢをもとに行動予測を目的とした行動のしくみや理解を説明できる。 ②心身機能の低下や障害が環境への適応を困難となる、その心理的変遷とその対処を説明できる。 ③こころとからだのしくみの知識をもとにストレスマネジメントの心理教育的関わりができる。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明					
2	障害と病、症状について理解する			社会福祉学的観点でのワークを行う		
3	適応障害とうつ病について理解する			DSM5 の診断基準マニュアルの理解		
4	統合失調症について理解する			薬物療法とコメディカルの関わり		
5	ストレス理論の紹介			心理学的ストレスモデルを採用		
6	双極性障害を理解する			症状理解と対応の在り方		
7	全般性不安障害（強迫性障害・パニック障害・社交不安）			症状理解と症状発生過程のしくみ		
8	認知療法の原理			認知行動療法の理論モデルを採用		
9	行動療法の原理			介護実践の場で応用を検討		
10	パーソナリティ障害について理解			症状理解と対応の在り方		
11	神経発達症について			概要説明		
12	ASD（自閉症スペクトラム）について			事例紹介と症例検討		
13	ADHD（注意欠陥多動性障害）について			事例紹介と症例検討		
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」（第2版）中央法規出版				
評価	筆記試験	レポート提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生へのメッセージ	人間の行動予測を目的とした行動科学である心理学的視点を介護実践の場で役立つことがあると思います。人を理解する人間観を養える時間となるよう取り組んでいきましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅢ	講義	30	2年後期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。						
《達成目標》 ①こころとからだのしくみⅠの知識をもとに生活に関連したしくみを説明できる。 ②心身機能の低下や障害が生活に及ぼす影響と心理的側面が説明できる。 ③こころとからだのしくみの知識をもとにケアの根拠を述べることができる。 ④こころとからだのしくみの知識をもとに観察し、多職種(医療職等)と連携することができる。						
回数	授業計画			備考		
1	身じたくに関連したしくみ①			授業概要説明 P118～		
2	身じたくに関連したしくみ②			P136～		
3	移動に関連したしくみ①			P90～		
4	移動に関連したしくみ②			P106～		
5	移動に関連したしくみ③			ポジショニング演習		
6	食事に関連したしくみ①			小テスト P154～		
7	食事に関連したしくみ②			P162～		
8	食事に関連したしくみ③			P169～		
9	入浴・清潔保持に関連したしくみ①			P178～		
10	入浴・清潔保持に関連したしくみ②			小テスト P190～		
11	排せつに関連したしくみ①			P214～		
12	排せつに関連したしくみ②			P227～		
13	睡眠に関連したしくみ			P 246～		
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート課題 記入提出					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」(第2版) 中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート提出	小テスト	リアクションペーパー		
	60%	10%	20%	10%		
学生へのメッセージ	こころとからだのしくみⅠで学んだ内容を復習しましょう。生活支援技術Ⅲ～Ⅴと関連付け根拠にしましょう。配布された資料はファイル等にまとめ、学習しましょう。					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、チームの中の介護福祉士としての医療的ケアを実施すること、また根拠に基づいたケアの実施について説明できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	講義	30/60	1 年前期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。						
《行動目標》①人間の発達段階における一般的特徴を説明できる。 ②生涯発達の考え方を説明できる。 ③身体的、心理的、社会的状況が相互に影響して個人が存在していることを説明できる。						
回数	授業計画				備考	
1	発達と老化の理解を学ぶ意義 介護のイメージ 介護の仕事				授業概要説明	
2	成長と発達・生涯発達の考え方				P2～16	
3	発達理論 身体機能の発達				P24～ 小テスト	
4	発達にともなう特徴的な疾病や障害				P39～	
5	発達段階における社会性の発達 愛着の発達				P56～	
6	老年期の定義 老化とは				P70～ 小テスト	
7	高齢者体験				レポート提出	
8	人格と尊厳・老いの価値				P85～	
9	セクシュアリティ				P93～	
10	死の受容過程と喪失体験				小テスト P190～	
11	認知症サポーター養成講座(キャラバンメイト)認知症の人への対応				資料あり	
12	認知症の理解 記憶機能の変化				上記資料持参	
13	社会の中での生活上の課題（介護問題）				P 98～	
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート課題 提出					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」（第2版）中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート課題提出	小テスト	リアクションペーパー提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生へのメッセージ	人間の成長・発達から自分を振り返り、将来を考え介護と関連付けて考えていてほしい。また実習で出会う人たちのことを思い取り組んでほしい。					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、介護福祉士として発達と老化をふまえ、社会情勢に基づき考えられる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	講義	30/60	1 年後期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。						
《行動目標》 ①高齢者が持つ心身の特徴が説明できる。 ②さまざまな症状が日常生活へどのように影響するのかを説明できる。						
回数	授業計画					備考
1	授業概要 老化期の心身の全体的変化					P111～
2	老年期の変化 脳・神経・感覚器					P118～16
3	〃	循環器・呼吸器・消化器				P126～ 小テスト
4	〃	泌尿器・生殖器・内分泌代謝・免疫系				P133～
5	老化にともなう心理的变化と生活への影響					P143～
6	〃	社会的変化と生活への影響				P164～ 小テスト
7	健康長寿に向けての健康					P188～
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨・脳神経					P85～
9	〃	脳血管疾患				P93～
10	〃	感覚器・循環器				P190～ 小テスト
11	〃	呼吸器・消化器				P236～
12	〃	泌尿器・糖尿病				P246～
13	〃	歯・口腔 がん 感染症 精神疾患他				P 259～
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート課題 提出					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート提出	小テスト	リアクションペーパー提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生へのメッセージ	医学的話が中心で、難しいと感じるかもしれないが、実習で出会う人や自分の祖父母・父母を思い浮かべ、取り組んでほしい					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、介護福祉士として高齢者の心身の状態を考えられる授業を行う					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	担当者
こころとからだ のしくみ	認知症の理解	講義	30/60	2 年前期		大澤町子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①脳の仕組みや脳の構造と症状の関係、認知症の人の心理を理解して、説明することが出来る。 ②認知症の中核症状・生活障害・BPSD の理解が出来て、説明することが出来る。 ③認知症の診断と重症度、原因疾患と治療薬についての知識を持ち、認知症予防の重要性を理解する。 ④認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念、認知症当事者の思いや視点を理解し説明出来る。						
回数	授業計画			備考		
1	授業概要説明 認知症とは何か。高齢者の現状と今後			教科書 P2～P13		
2	脳の仕組み。脳の構造・機能、認知症の病理。			教科書 P14～P20		
3	脳の構造と症状との関係、認知症の人の心理。			教科書 P20～P31 レポート作成		
4	認知症の症状、診断・治療・予防。中核症状・生活障害			教科書 P34～P48		
5	BPSD の理解（定義・要因・誘因）			教科書 P49～P56		
6	BPSD の理解（主要な BPSD、BPSD の評価尺度）			教科書 P57～P64		
7	認知症の診断と重症度			教科書 P65～P77		
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害			教科書 P78～P95		
9	認知症の治療薬			教科書 P96～P107		
10	認知症の予防、認知症予防運動、認知症を防ぐ食生活			教科書 P110～P120		
11	認知症ケアの理念と視点、 認知症を取り巻く状況			教科書 P121～P135		
12	認知症当事者の視点から見えるもの （DVD 視聴）			教科書 P136～P152 レポート作成		
13	前期総復習 （重要事項の確認）			教科書 P2～P156		
14	定期試験実施			前期試験		
15	定期試験の振り返り、解説・後期に向けて			解答・解説		
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート提出	小テスト			
	60%	20%	20%			
学生への メッセージ	認知症について心から理解して、多くの認知症の人の力になれるように期待しています。					
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	認知症の理解	講義	30/60	2 年後期		大澤町子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①「パーソン・センタード・ケア」について、理解できて説明できる。 ②認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールを習熟できて、実際に活用できる ③具体的な認知症の人のケア方法を身に付けて、それを説明することが出来る。 ④介護者支援、介護福祉職への支援、地域支援、制度、サービス、機関について説明できる。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明、パーソン・センタード・ケアについて				教科書 P154～P163	
2	認知症の人の理解・特性をふまえたアセスメント・ツール				教科書 P164～P190	
3	認知症の人とのコミュニケーション				教科書 P191～P196	
4	認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔、睡眠）				教科書 P197～P216	
5	認知症の人へのケア（活動・生きがい・BPSD のケア）				教科書 P216～P224	
6	認知症の人へのさまざまなアプローチ				教科書 P225～P232 レポート作成	
7	その他の各種アプローチ				教科書 P232～P237	
8	認知症の人の終末期医療と介護、環境づくり				教科書 P239～P261	
9	介護者支援、家族への支援				教科書 P264～P281	
10	介護者支援、介護福祉職への支援				教科書 P282～P296	
11	認知症の人の地域生活支援、地域包括ケアシステム				教科書 P300～P312	
12	認知症の人の地域生活支援 多職種連携と協働				教科書 P314～P332 レポート作成	
13	後期総復習（重要事項の確認）				教科書 P154～P332	
14	定期試験				後期試験	
15	定期試験の振り返り				解答、解説	
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	レポート提出		小テスト		
	60%	20%		20%		
学生へのメッセージ	認知症について、心から理解して、多くの認知症の人の力になれることを期待しています。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだ のしくみ	障害の理解	講義	30/60	2 年後期		船澤修一
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①自立、自己実現、ノーマライゼーション、インクルージョン、人権擁護のあり方を説明できる。 ② I C F から、ライフステージや障害の特性に応じた QOL を高める支援につなげることができる。 ③医学的・心理的側面から心身や心理的な変化を理解し、本人・家族の支援ができる。 ④障害の特性に応じた障害福祉制度を理解し支援に活用できる。						
回数	授業計画				備考	
1	授業概要説明					
2	障害者福祉の理念 I C F と支援の方向性					
3	障害及び障害者の定義					
4	障害者支援 福祉制度の発展					
5	障害者の権利擁護 アドボカシと法制度					
6	障害者福祉サービス 地域生活支援					
7	障害者福祉サービス 施設福祉					
8	障害者福祉サービス 早期療育 インクルーシブ教育					
9	障害者福祉サービス 学齢児への支援					
10	障害者の雇用					
11	外国の障害者福祉					
12	障害者の家族への支援					
13	障害がある人の心理					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト		最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」（第 2 版）中央法規出版				
評価		筆記試験	小テスト	授業参加状況		
		70%	20%	10%		
学生への メッセージ		社会環境により、障害による不利益をなくしていくことができること、本人参加、自己実現に支援の重要性を学びましょう。				
実務経験と 科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
こころとからだのしくみ	障害の理解	講義	30/60	2 年後期		船澤修一
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①自立、自己実現、ノーマライゼーション、インクルージョン、人権擁護のあり方を説明できる。 ② I C F から、ライフステージや障害特性に応じた QOL を高める支援につなげることができる。 ③医学的、心理的側面から心身や心理的な変化を理解し、本人・家族の支援ができる。 ④障害の特性に応じた障害福祉制度を理解し支援に活用できる。						
回数	授業計画					備考
1	知的障害 原因・特性理解と支援					
2	身体障害 肢体不自由 原因・特性理解と支援					
3	身体障害 視覚障害 原因・特性理解と支援					
4	身体障害 聴覚・言語障害 原因・特性理解と支援					
5	重複障害 特性理解と支援					
6	精神障害 原因・特性理解と支援					
7	高次機能障害 原因・特性理解と支援					
8	発達障害 原因・特性理解と支援					
9	難病 原因・特性理解と支援					小テスト
10	職種理解とチームアプローチ					
11	機関理解とネットワークによる支援					
12	事例検討 ①特性に応じた支援					
13	事例検討 ②制度の活用					
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」（第 2 版）中央法規出版					
評価	筆記試験	小テスト	授業参加状況			
	70%	20%	10%			
学生へのメッセージ	障害種別による特性を理解し、すべての障害において本人参加、自己実現の支援が重要であることを学びましょう。					
実務経験と科目との関連						

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	30/68	1年前期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。						
回数	授業計画					備考
1	衛生的手洗い 授業概要の説明 医療行為・医療的ケアとは					テキスト P2～
2	介護福祉士が、なぜ医療的ケアをするのか					P11～
3	医療的ケアと喀痰吸引の背景 その他の制度（介護福祉士法の改正）					P17～
4	安全な療養生活					P37～
5	救急蘇生					P46～
6	高齢者に多い窒息と発生時の対応					P54～
7	清潔保持と感染予防					P62～
8	療養環境の清潔・消毒法（消毒と滅菌）					P69～
9	滅菌物の取り扱い（手袋の装着）					資料あり
10	健康の考え方					P80～
11	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）					資料あり
12	健康状態把握の演習（バイタルサインの測定など）					資料あり
13	測定した値の読み取り 急変状態について					P80～
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り レポート作成提出					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」（第2版）中央法規出版					
評価内容	筆記試験	レポート提出	小テスト	リアクションペーパーの提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生へのメッセージ	人間の生きる力を支えるために必要な知識です。今後さらに必要となってきます。安全なケアを提供するための根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、チームの中の介護福祉士としての医療的ケアを実施すること、また根拠に基づいたケアの実施について説明できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	38/68	1年後期	○	中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
＜達成目標＞ ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。						
回数	授業計画					備考
1	高齢者および障害者の喀痰吸引、呼吸のしくみ 喀痰吸引とは					テキスト P96～
2	人工呼吸器と吸引					P107～
3	吸引を受ける対象・家族の気持ち、説明と同意 子どもの吸					P121～
4	呼吸系の感染予防(吸引と関連して)喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認					P129～
5	喀痰吸引実施手順解説 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ					P142～
7	高齢者および障害者の経管栄養、消化器のしくみ 経管栄養とは					P168～
8	経管栄養実施上の留意点 子どもの経管栄養 経管栄養に関係する感染と予防					P182～
9	経管栄養を受ける対象・家族の気持ち、説明と同意 経管栄養によって生じる危険、事後の安全確認					P188～
10	経管栄養の技術と留意点 経管栄養に必要なケア					P193～
11	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持					P205～
12	経管栄養実施手順解説 清潔の保持 報告及び記録					P214～
13	経管栄養の手順と器具・機材を使ってみる					資料あり
14	定期試験					
15	定期試験の振り返り					
16～19	喀痰吸引・経過栄養をグループで実施する					
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」(第2版) 中央法規出版					
評価内容	筆記試験	レポート提出	小テスト	リアクションペーパーの提出		
	60%	10%	20%	10%		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後さらに必要となってきます。安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、チームの中の介護福祉士としての医療的ケアを実施すること、また根拠に基づいたケアの実施について説明できる授業を行う。					

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期	実務経験	授業担当者
医療的ケア	医療的ケアⅡ	演習	60	2年前期	○	宮崎弘美 中島裕子
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。						
《達成目標》 ①医療的ケアを安全・的確に実施するための技術の実践できる。 ②1つ1つの行為、手順の根拠を述べることができる。 ③対象のプライバシーに配慮した行動ができる。 ④対象の尊厳や人権に配慮した行動ができる						
回数	授業計画					備考
1・2	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習　B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習					毎回演習をする
3・4	〃					
5・6	〃					
7・8	〃					
9・10	〃					
11・12	〃					
13・14	〃					
15・16	〃					
17・18	〃					
19・20	〃					
21・22	〃					
23・24	〃					
25・26	〃					
27・28	〃					
29・30	救急蘇生演習（救急隊による）					
使用テキスト	最新　介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」（第2版）中央法規出版					
評価内容	演習評価表	レポート提出	参加状況	・積極的に参加している ・私語をしていない ・自分以外の人の支援をする		
	60%	10%(最終日)	30%			
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後さらに必要となってきます。安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					
実務経験と科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、チームの中の介護福祉士としての医療的ケアを実施すること、また根拠に基づいたケアの実施について説明できる授業を行う。					

